

4月22日 木曜日
1999年(平成11年)

発行所
読売新聞西部本社
北九州市小倉北区明和町1-11
郵便番号 802-8571
電話 (093) 531-5131

第12361号 (日刊)©読売新聞西部本社1999年

韓国の盧泰愚元大統領（在任八八年二月一九三年二月）は、このほど発売された雑誌「月刊朝鮮」のインタビュー記事の中で、北朝鮮の故金日成主席が九二年に特使を秘密裏に韓国に派遣し、盧大統領を北朝鮮に招待していたことを明らかにした。九〇一九二年は、韓国と北朝鮮が首相会談の形で公式対話をしていた時期だが、水面化では最高首脳レベルでも意思疎通があったことが確認された。

特使は北朝鮮の尹基福・労働党書記で、ソウルで盧泰愚大統領と会見して、金主席名の招待状を手渡した。盧大統領は、この親書が、四月十五日の金日成主席の誕生日を祝う式典への招待であったことから、正式な首脳会談とは性質が異なるかと判断して、拒否したと

故金主席の誕生日 式典招待を拒否



90年10月、盧泰愚大統領の特使として訪朝した徐東権・国家安全企画部長（左）と握手する金正日書記。中央は金日成主席（肩書はいずれも当時）＝「月刊朝鮮」提供

つたソ連、中国との国交樹立のいきさつや、八八年のソウル五輪に共産圏国家を参加させるために行った働きかけなど、「北方外交」全般について詳細に語っている。退職後、盧氏が、インタビュに応じたのはこれが初めてで、同誌は、インタビュを連載する予定で、次号は、内政問題を重点的に扱つという。

ህዝብ

一方で盧氏は、九〇年に、
「確認する方法を併用し
た」と説明して、韓国側も
当時の徐東權・国家安全企
画部長を平壤に特使として
首脳会談の実現に努力して
派遣したことも明らかにし
いたことを裏付けた。

た。徐部長は、金日成主席 盧氏発言に関連して、徐じた。

と金正日書記に同時に会見した。盧氏は、派遣の目的について、「南北首脳会談の事務所に北朝鮮の尹書記という重要な懸案についてと直接通話ができる電話

また、盧氏は、ソウル・釜山間を結ぶ計画で現在、建設中の京釜高速鉄道（韓国版新幹線）について、本

来は、韓国国内の建設だけではなく、南北統一を視野に入れて、北朝鮮を経過して、中国、シベリアを結び、一方で、海底トンネルで日本とも連結する構想だったとされている。

「月刊朝鮮」のインタビュで盧氏は、南北関係にとどまらず、在職当時に行

南北首脳会談

実現へ特使送り合い